

発行人 / 神奈川県障害者定期刊行物協会

〒222-0035 神奈川県横浜市港北区烏山町 1752 番地

障害者スポーツ文化センター横浜ホール 3 階
横浜市車椅子の会内

KSK じんかれんニュース

NO. 60 2022年4月号

編集人 / NPO 法人じんかれん

(神奈川県精神保健福祉家族会連合会)

〒233-0006 横浜市港南区芹が谷 2-5-2

神奈川県精神保健福祉センター内

TEL 045-821-8796 FAX 045-821-8469

E-mail: jinkaren@forest.ocn.ne.jp

URL: <https://jinkaren.net/>

定価 50 円 (会員は会費に購読料が含まれています)

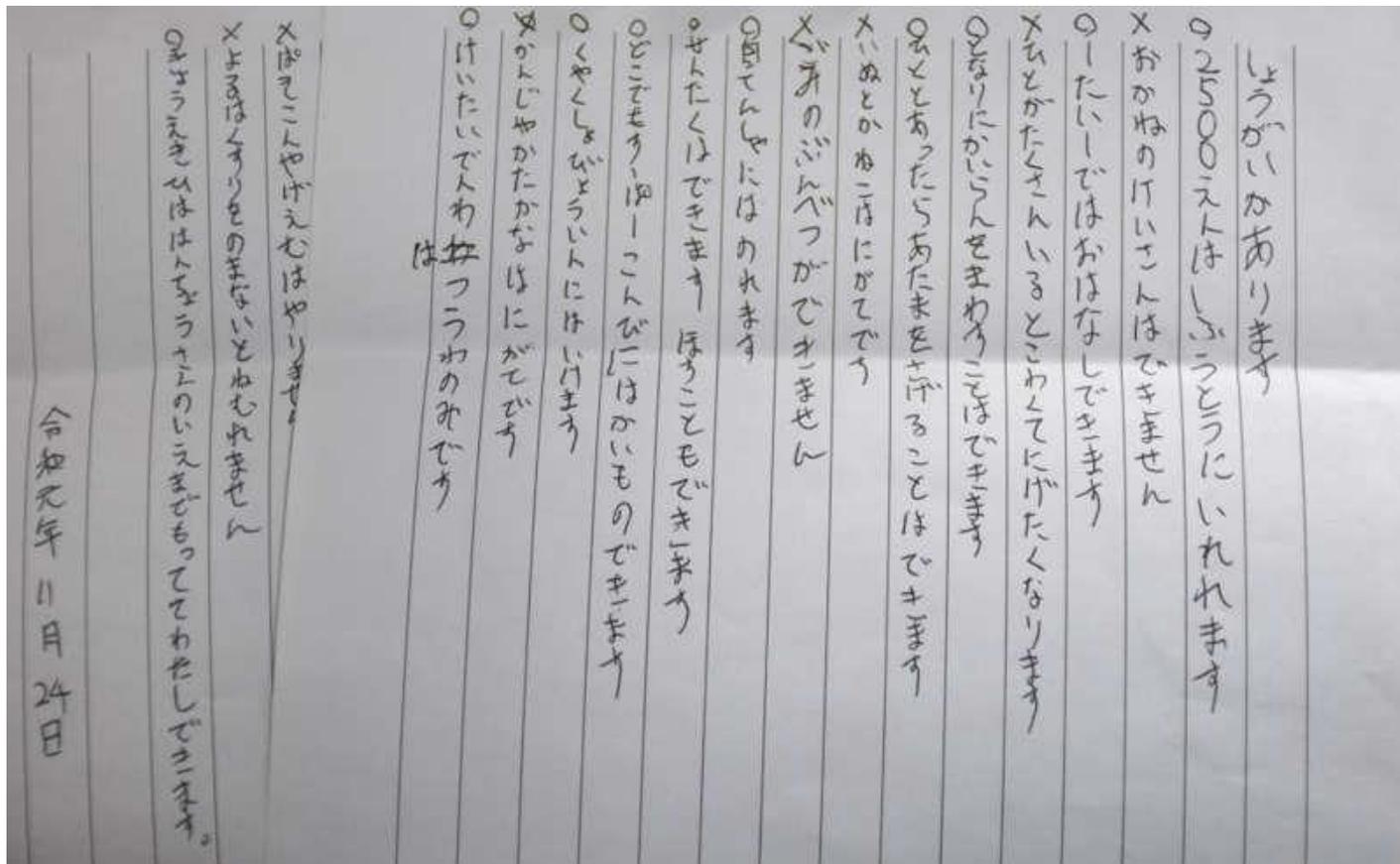
障害を暴露した自治会に賠償命令 自殺との因果関係否定、大阪地裁

知的・精神障害がある男性（当時 36 歳）が自殺したのは、自治会役員から障害者であることを文書に書くよう強要されたのが原因だとして、男性の両親が大阪市営住宅の自治会と当時の役員ら 2 人に 2500 万円の損害賠償を求めた訴訟で、大阪地裁は 4 日、自治会側に 44 万円の支払いを命じた。判決は、障害の有無や内容を書かせたのは「プライバシーや個人の尊厳を侵害し、社会的相当性を欠いている」として責任を認めたが、文書作成と自殺の因果関係は認めなかった。

判決などによると、統合失調症などで障害者手帳の交付を受けて市営住宅で 1 人暮らしをしていた男性は 19 年 11 月、自治会役員に障害を理由に持ち回りの班長ができないことを伝えた。自治会の役員の選出対象から外してもらう事情を住民に説明するための資料の作成を依頼され、便箋 2 枚に「しょうがいがあります」「おかねのけいさんはできません」などと書かされた。男性は翌日、自室で自殺した。

自治会側は訴訟で、「文書は他の住人の理解を得るためで、障害の程度を把握しようとした正当な目的だった。自殺は予見できなかった」と争っていた。

林潤裁判長は「障害の有無や内容、不得手な事柄を秘匿する利益は個人の尊厳に関わり、保護される」と指摘。文書では男性が秘匿したいと思うとみられる状況を事細かに明らかにし、自治会の仕事と関連性が高いとは言えない事項に及んでいるとして「社会的相当性を明らかに欠いている」と自治会側の責任を認めた。一方で役員らが男性のような障害者が自殺する危険性に関し「正確で十分な知識があったことを裏付ける証拠はない」として、役員らが男性の自殺を予測するのは不可能だったと判断し、文書を書かせたことによる精神的苦痛にのみ賠償を命じた。



© KYODONEWS 自殺した男性が書かされた文書

みんなねっと家族相談員交流会に参加して

2月5日（金）、みんなねっと主催の「家族相談員交流会」が、オンラインで開かれました。

みんなねっとでは、家族相談スキルアップのための資材（*eラーニング講座「家族相談で大切にしたいこと」）の作成を行っています。この講座内容をより良いものにするために、都道府県連で家族相談員、これから相談員になりたい会員を対象に企画された初めてのオンライン交流会です。当日は全国から予想以上の63名の参加がありました。じんかれんからは現在電話相談を担当している3名（谷田川、石川、檜原）が参加しました。



オンライン交流会参加に先立って受講したeラーニング講座は、傾聴の大切さを確認できるもので、「相談者は具体的なアドバイスを求めているのではない」という立場に立ったものでした。一度の相談で終わるのではなく、継続して繋がっていくために「電話をかけて良かった」と思ってもらえるように心がけていくことが基本だと感じました。

交流会では、まず参加者は7つのグループに分かれて、事前に受けた講座について意見を出し合いました。講座は電話相談をわかりやすく解説したのですが、講座にたどり着くまでの手順がネットに不慣れな人にとっては複雑であること、具体的な事例を挙げての説明が欲しい、実践的なロールプレイ、標準的な相談記録表の例を加える等、改善点が上がりました。今回の意見を取り入れて、みんなねっとHPで会員が利

用出来るシステムを運用していく予定だそうで
後半では、参加者からは「表情が見えない」
「沈黙があると何か話さなくてはとと思ってしま
う」といった電話相談ならではの難しさ、時
間制限を初めに伝えられない、相談者はアドバ
イスを聞くために電話をかけてくるので、傾聴
だけでは納得してもらえない等の意見が出ま
した。それに対しては、傾聴にプラスして、自
分のわかる支援先の情報、同じ家族として体験
したことを、失敗談を含めて伝えていけば良い
とのアドバイスもありました。家族会の相談担
当者が支援先の情報だけでなく、各相談事例に
ついて共有し、お互い検討し合える体制を作
ることが大事だと思います。相談事業が行政か
らの委託ではなく、予算の確保が難しい家族会
もあるようでした。みんなねっとで実態調査を
し、その結果で行政に働きかけることもできそ
うです。

「制度のはざまにいる人に対
して一緒に考えてあげる」。これ
が、家族が電話相談を担う意味
ではないか。あまりレベルを上
げると相談事業



す。
が続いていかないとの意見も出ました。長年相
談を担当する方の「毎回電話を切る度に『これ
で良かったんだろうか』という気持ちがわいてき
ます」という言葉が印象に残りました。

電話相談を受ける中での様々なご苦労話と
対応の仕方なども出され、全国をつないでの交
流会はとても有意義なものでした。相談事業以
外にも「8050 問題」「成年後見制度」「日常生
活支援事業」「国を動かすためには議員とのつ
ながりも必要」「住む場所で支援に差が無いよ
うに」「どこにもつながっていない人に働きか
けるには」などの問題も出され、各地から取り
組むべき課題について多くの声が寄せられま
した。オンラインでの会合は対面より疲れませ
すが、利用していけば活動がますます広がる可
能性を感じました。

文責：石川ひとみ

* eラーニングの“e”は、electronic(電子的な)
の意味であり、主に、インターネットを利用した学
習形態のことです。いままでの集合研修には無い、
多くのメリットがあります。

自助グループ

るか！」



「精神障害者当事者夫婦の会 負けてたま

「第 40 回全国中学生人権作文コンテスト」で、横浜市（人権擁護委員長賞）、
神奈川県(最優秀賞)、全国（奨励賞）の三冠を受賞され、じんかれんニュース 2 月号
で紹介した和田美珠さんのご両親、和田公一さん、千珠子さんは、全国でも珍しい当
事者夫婦の会を立ち上げ活躍しておられます。この度、立ち上げに至った決意文を投
稿していただきましたのでご紹介します。

私は精神障害者（統合失調症）です。妻も精神障害者（統合失調症）です。私達は 15 年前、「精
神障害者の自立と支援」というタイトルのフォーラムで出逢い、交際を始めました。ある日、妻は

当時の主治医から「何、同病の男性と付き合っている！薬増やしましょう！」と言われ、怖くなって、当時一人暮らしだった私の家に家出をしてきました。その後、妻は程なく懐妊し、精神科も産婦人科もある某大学病院に転院しました。そして新しい主治医から「子供を堕ろすか？乳児院に入れるか？どちらかを選びなさい」の 2 択しか与えられませんでした。それを聞いた妻は子供を守る獅子の様に怒り、興奮しているということで強制入院になりました。しかも閉鎖病棟の隔離室です。妻の家族は「堕ろせ」「堕ろせ」の大合唱。私の家族は当時私と断絶状態だったので我関せずでした。

当時私はデイケアに通っていて、そこのスタッフさんに相談したところ、「和田さん、現実的な選択をしてください(つまり堕ろせということ)」と言われた通り、他の若いスタッフさんからは笑いながら「まだ堕ろしてないんだ」と言われました。周りを見渡しても私達と同じ境遇の当事者はなく、それどころか結婚している当事者もいなくて、私達は味方をしてくれる相談者もなく、私達は孤立していました。

医師も交えて妻の家族とのカンファレンスが何度か行われ、その度に「堕ろせ」と言われ、私達は一貫して「堕ろさない」の平行線。そのままもう堕ろせない妊娠 22 週を越えて、結局妻が親族と断絶する事で産む事になりました。精神科の看護師さんに「あなたは子供の幸せを考えないのか」と言われましたが、子供の幸せを決めるのは私達ではなく子ども自身であると考えました。そして、無事に妻は娘を出産して、私はその産声を聞き幸せを感じました。乳児院には、最短と言われていた 2 歳 3 か月までお世話になり、娘は今や中学 3 年生、乳児院での記憶は全く無いそうです。天真爛漫な可愛い子に育ちました。

最近私と話がしたいと、息子さんを産んだ精神障害のお母さんからご相談を頂きました。話によると、子供を産んだ直後、そのお母さんに何も告げられず、赤ちゃんを児童相談所に連れていかれたとの事でした。それを聞いて私は、「ああ、15 年たっても変わってないんだな」と思いました。

前々から妻と考えていましたが、当事者のカップル、夫婦、子育てなどの相談相手が今だに少なく、ならば私達が相談相手としての旗を上げようと、2021 年 2 月からこの会を発起した次第です。

2021 年 発起人 和田公一

2021 年 2 月 11 日(木)、主人とベランダで語り合っていた時、「生きてる間に“夫婦の会”って出来るのかな？」と私が呟くと、「今やろう！すぐやろう！」と TEL をかけまくり結成。会の名前が「精神障害者当事者夫婦の会 負けてたまるか！」。15 年前、長兄が主人に「千珠子は入院させた、ザマアミロ！」と TEL をかけて、主人が「ちずちゃん、強制入院！負けてたまるか！」と紙に書き、それを写真に撮った。「ああ、あの時の、、、」と思った。

主人の決意文で、なぜ夫婦の会を和田夫婦が立ち上げたのか、精神科 Dr が精神障害当事者の恋愛や結婚といったプライベートなことにどれ程否定的かというのが伝わると思います。

「何、同病の男性と付き合っている！薬増やしましょう！」って言われたんですよ。確かに中には恋愛で病状悪化という人もいるかもしれませんが。でも精神障害者はそこまで Dr に管理されないといけないんですか？中には精神障害者の恋愛、結婚反対の Dr を立派な Dr という精神障害者もいます。でも果たしてそうでしょうか？精神障害者はもっと自由であっていいと思います。

発起人 和田千珠子

私は統合失調症の当事者です。2 年半前、数年間交際していた女性と結婚しました。アルバイトと二人の年金で貯金を少しずつ取り崩しながら細々と暮らしています。

そんな私達夫婦に、和田氏から当事者会立ち上げのお話を頂き熟慮の末、和田夫妻と共に「精神障害者当事者夫婦の会 負けてたまるか！」の運営に加わりました。常々、なにか出来ることはないかと考えていた私にはありがたいお話でした。相談相手としての自信はありませんが、私が経験してきた事を元に相談者様のお話を傾聴できたと思います。

事務局 小林正彦

和田公一という男に出逢ったのは十年と少し前になる。ひょろりと痩せて長い身体で金髪を後ろで束ねたスタイルは今も変わらない。初めての電話は意外にも彼からだった。煮詰まって相談してきた。世間知らずの怖いもの知らずだった私は「軸が… (ブレてます)」。

それからである。私達は本当に困った時、相談相手が見当たらない時、思いだしたように電話をする仲になった。距離はあるが信頼している。そんな感じだ。

そんな折、彼が当事者としてやっていた仕事を辞めた。そして一念発起、この会を立ち上げ、私達小林夫婦を誘ってくれた。嬉しかった。

とにかくこの男の役に立ちたい。持てるエネルギーは少ないが、できうる限りこの会の為にも使いたい。もちろん自分の家庭を一番大切に思っている。夫をなによりも大切に想っている。

それあつての夫婦の会だ。

小林さやか



川崎 長男監禁事件について

川崎市の自宅で、長男（当時 37）を死亡するまでの 4 カ月にわたって拘束したとして、両親と妹の 3 人が逮捕監禁容疑で逮捕された。父親は容疑を認め、「外に出して迷惑をかけたくないと思った」と供述しているという。

父親の警察への説明によると、長男は大学生だった 17 年ほど前から両親に暴力を振るったり、大声を上げたりするようになった。その際、区役所に相談し「統合失調症の疑いがある」と指摘を受けたが、家族が病院へ連れて行くことはなく、その後、服も着られない状況になり、全裸で外出して保護される騒ぎがあったのを機に自宅でロープにつながり監禁状態にしていたという。

司法解剖の結果、死因は床ずれ部分に細菌が入り込んだことによる感染症だったことも判明している。長期間にわたって、ずっと寝たきり状態だったとみられている。



精神疾患の長男を抱えた家族・・・その背景に同情の声 (ネットの声)



世間で物議をかもしている事件や事故を始めとした様々なニュースに対するネットの反応をまとめて速報で発信している『人生パルプンテ』に、この事件についても多数の意見が寄せられています。

匿名による投稿を拾いました。

♥ 精神疾患の男性、この方は家族に暴言や暴力を振るっていた場合はそれも考慮されるのでしょうか。37 歳の成人男性相手では、高齢の両親も妹も力では絶対にかないません。万が一家族が殴られていたり安全を脅かされてい

♥ 精神の病気を抱えていても、入院するのが嫌だって言って入院しない人もいるし、自分の病気を認められない人もいる。人をコントロールすることは難しい。だから拘束するしかなっ

♥ 精神科で働いています。家族で支えきれないと思ったら、まずはそれを病院・保健所・警察・行政(役所)、ありとあらゆるところで相談して下さい。記録を残す事が必要です。対応する人によっては家族で見るよう説得される可能性もあります。絶対「家族では限界、無理」の意見を曲げないで下さい。どうか諦めないで。特に病院への相談の場合は入院前の時点で、退

♥ 精神病院が、地域移行という体制になって、長期入院しにくくなりましたが、それは本当に正しいのでしょうか。現実、病気により、暴れたり、危険な状態でも、家に帰らされ、家族で

♥ 他に方法がなかったのかもしれない。外にでないようにしなければ、他人に何かしてしまう可能性を考えれば、私だって同じ事をするかもしれない。入院も本人の拒否が強ければ無理

♥ 未成年に 10 万円ずつ払って消えるお金で税金を消してしまうよりも、精神障害や疾患のリハビリ療養施設を造った方が未来にも社会にも残るものが生まれると思う。最近精神疾患が原因で起きる事件が多いが、事前に精神異常が分かっていたとしても今の日本ではどこに何を言おうが社会に放置されて結局事件が起きて刑務所か刑務所の代わりに精神治療に辿りつく。

たとしても、拘束してはいけないのでしょうか・・・。

施設に入れろと言っても本人にある程度の意志があると、施設を拒否する場合も多いです。

たのかな。想像する事しか出来ないけど。私の家族も似たような状況で他人事じゃないと思った。

院後に退院先があるかないか(家族が引き受けられるか否か)で入れる病棟が変わってくるパターンがあります。何も言わなければ3か月以内に自宅退院です。本人には酷な様ですが、やはり家族も限界があります。頼れるところは全て頼って、このような最悪なケースを回避して欲しいと思います。



見るのほど、残酷なことはないです。この家族が入院しなくていいと思っていたなら別ですが。

だし、お金がかかる。しかしこうなると、未来のあるきょうだいの人生まで狂ってしまう。他人事とは思えない。

いい加減精神疾患を社会放置しないで、隔離療養でもしっかり精神治療できる施設が必要だと思いますけど。3か月内の期限を設けずに、騙して税金搾取の温床にならないように専門家による施設と患者への監視は二重三重に必要かと思いますが。重度長期や精神異常の人の行き場がない。

♥ 夕方のニュースで知りました。追い詰められての事だったのでは、、、とそう思いました。他人に任せたりできない事情があったはずで。又、長い間苦しまれた結果では。以前家庭内暴力の息子さんを、お父様が他人に危害を加えることを恐れて殺害されたという報道があ

♥ これは深刻でしんどいニュースですね。精神疾患そのもの、また抱え込んだ家族への無理解、孤立化は深刻です。以前の事務次官の事件もそうですが、悲惨で最悪な結果を招かないた

りましたが、、、そのことを思いました。お亡くなりになったご長男のご冥福をお祈りしますと共に加害者とされているご両親と妹さんの未来に少しでも寄り添える社会が存在してくれることを願ってやみません。

めに精神「疾患」への理解、また家族も含めた支援が広がるようにしなければと思います。また様々な事情で社会と繋がれない家族や個人を理解、支援していくのか、つい先だつての埼玉の事件でも考えさせられます。

凄く悲しい事件に対し 120 件ほどの様々な意見が寄せられました。

精神科勤務の方が、「家族で支えきれないと思ったら、まずはそれを病院・保健所・警察・行政(役所)ありとあらゆる所で相談して下さい。記録を残す事が必要」とコメントを残しています。紙面の都合により、独断で投稿文 8 件を掲載しました。

詳しくは『人生パルプンテ』 <https://parupunte-life.com/archives/21187> を検索してください。

(まとめ：三富)



寄り添う気持ち病棟へ 精神科入院患者に差し入れ 横浜の団体支援スタート

一般社団法人 Thoughtful Gift(ソースフルギフト)

私たちは精神障害により閉鎖病棟などの精神科病院へ入院する際に必要な物資を無償で提供する非営利団体です。患者さんにお送りする物資のことをまとめて「ミーアの贈り物」と呼んでいます。独りぼっちで入院する方へ、入院準備が出来なかった方へ、ミーアの贈り物を届けたい。

急な症状悪化などで県内の精神科病院に入院した患者をサポートしようと、横浜市中区の一般社団法人「ソースフルギフト」が生活必需品などを無料で届ける取り組みをスタートさせた。

不自由な病棟で心細さを感じている患者に向け、代表の菊池奈々子さん(33)は「寂しさや不安に寄り添う存在でありたい」と話している。

歯ブラシや衣料品、粉洗剤…。団体が差し入れられるのは、入院経験者や専門家が選んだ約 40

種類の物品だ。病棟で手にした患者からは「何も持たずに入院したので助かった」「誰も届けてくれる人がいなかった」といった感謝の声が届く。取り組みを始めたきっかけは、菊池さん自信の経験だった。

精神科病院への 2 週間の任意入院だったが、自傷につながるひも付きスニーカーやビニール袋は持ち込めないなど厳しい制約があった。スマートフ



オンも不可とされ、同居する同性パートナーの中島愛さん(43)に公衆電話で必要な物を頼んだという。入院中から「精神科病院に物資を送るサービスがあったら画期的なのでは」と考えていた菊池さん。同様の制度や民間の支援活動

も「知る限りない」中で、企業などに協力を呼び掛けて資金や物資を調達。昨年 4 月の団体設立から今年 1 月末までに、約 40 人に物品を届けた。

社団法人 Thoughtful Gift ソースフルギフト

所在地: 〒231-0062 神奈川県 横浜市中区 桜木町 1 丁目 101 番地 1 クロスゲート 7 階

(2022.2.21 神奈川新聞より)

じんかれんホームページに YouTube (動画) を導入しました

この度、過去に行われた県民の集いのビデオを、講師の了解を得て YouTube (動画) にして、じんかれんホームページに掲載致しました。時間があるときにご覧になって下さい。基本は YouTube ですから一時停止など出来ます。休憩しながら適宜ご覧ください。

じんかれん ⇒ 「じんかれんについて」 ⇒ 「じんかれんの活動」
または、Google や Yahoo の検索で、「じんかれんの活動」で検索する上から 2 番目に出てきます。



随時、「県民の集い」「研修会」等 YouTube (動画) にて掲載の予定です。

今回は次の 2 点を掲載しました。

- ①第 44 回県民の集い in さがみはら 2017.11.21 講師 青木聖久氏
「生きづらさとは何か」～精神障がいをもつ本人や家族の 30 年のかかわりを通して～
- ②第 45 回県民の集い in 海老名&厚木 2018.11.10 日 森川すいめい氏他
オープンダイアログ (開かれた対話) によるリカバリーを目指して
「当事者ひとりひとりが自信をもって生きてゆくには」

じんかれん家族相談のご案内

◆研修を積んだ家族相談員による電話相談
毎週水曜日 10 時～16 時

☎ 045-821-8796

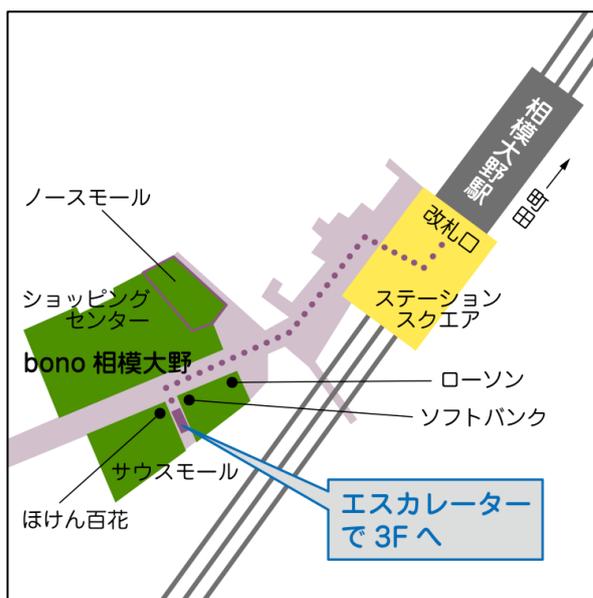
困っていること、悩んでいることなど
お話し下さい。

◆精神保健福祉の専門家による面談相談
毎月第 3 火曜日 13 時～16 時 (要予約)

相談場所: 相模原市南区 3-3-2
ボノ相模大野サウスモール 3 階
「ユニコムプラザさがみはら」
ミーティングルーム

予約電話: 火・木曜日 10 時～16 時
☎ 045-821-8796

※相談料無料・相談内容は秘密厳守します。



【編集後記】今日は 3 月 22 日、朝から雨がしとしと。桜の開花の情報があるとはいえ、昨日とはうって変わって、肌寒く、初の電力需給逼迫警報が発令され、節電の呼

びかけがされています。木々の芽吹き、メジロや、ウグイス等の鳥のさえずり、蟻などの昆虫の動き、春は着実に来ております。しかしこの寒さに戸惑っているかもしれません。早くコロナが終息して、皆で桜をめでながら盃を酌み交わしたいものです。

(三富)



赤い羽根 かながわ じんかれんニュースは、神奈川県共同募金会の助成を受けて編集・発行しています。この機関紙を通じて、精神障害保健福祉の向上に努めて参ります。募金にご協力頂いた皆さまにも感謝申し上げます。